



五苓散坐薬 自家製剤 準備、

ウイルス性胃腸炎流行期 50個、1個2g；流行期なので多めの作成、

10kg～1g 20kg～2g を目処に使い分け

坐薬コンテナー 2.25cc×15個、4つ	10cc 注射器	長めのさじ	ホスコ100g	ティッシュ (慣れないところぼれ落ちます) &シート
キッチン用の小型ミキサー	50個作るなら 100mlのビーカー	今回ツムラの五苓散エキス製剤 100g	ハサミ	

ここには載ってませんが、電子レンジ&コンロにお湯を沸かしておく(湯煎用)
(湯煎:慣れないと多めにつくる際、途中でホスコが固まってしまうため。再加熱用)

ホスコ 100g をビーカーに入れ電子レンジで1分加熱しとけ具合確認



今回は1分で溶け切ってなかったので追加で30秒加熱

完全に解けきったホスコ。このとき、温度97.5度ありました、火傷に注意、



撮影時、大きめのビーカーがひび割れてたので2つにしています

少し冷ます間に五苓散をキッチン用のミキサーで細かくします



ツムラの五苓散エキスをハサミでだ〜っと切ってミキサーへ



全体が粉になるまでしっかり攪拌

溶解したホスコ、この中に、ミキサーで粉状にした五苓散を入れます（こぼさないように注意）



長めのスプーンを使ってよくかき混ぜます

溶解したときの温度、このときは 42.5 度でした（熱めの温泉、慣れてくると温度計いりません！）

注射器にとり、坐薬コンテナにどんどん注入してゆきます



慣れないと途中で固まってしまうので、コンロにお湯をわかしておいて再度少々あたためるとよいでしょう。



撮影時、少し時間かけたので硬めになり注入しにくくなったためお湯で温め直しました

コンテナに注入後はしばらく常温で冷やします



製法を参考にしている、日本小児東洋医学会、小児漢方治療の手引、ではシーラーでシールする。ホッチキスやセロハンテープを使用しても良い、とあります（通常なら冷蔵庫保管、3ヶ月以内で使い切る）

「日本小児医事出版社、日本小児東洋医学会編、「小児漢方治療の手引」 P-24

私のような初心者でもわかりやすく記述されています。定価五千円

この写真撮影の最中は胃腸炎流行期ですぐに使い切ってしまうためシールしていませんでした。

その代わり 5個ずつ小分けにしてビニール袋に入れ冷蔵庫保管しています

~~~~~

ウイルス性の急性胃腸炎で来院

五苓散坐薬を使用後、しばらくして経口補水液（OS-1, ORS）を少量ずつスポイトでトライするようになって点滴することが少なくなりました。五苓散坐薬使う前に浣腸してからがお勧めのようです

あきらかな脱水症で全身状態がわるい、嘔吐が止まらない、五苓散坐薬が効かない、といった場合に輸液おこなったり、ナウゼリン坐薬を使うことがあります。

五苓散坐薬は、坐剤としても有効ですが漢方薬ならなんでも坐剤にして良いわけではありません（昨年の日本小児東洋医学会で指摘がありました、五苓散坐薬は問題なく坐薬としてOK）

クリニックでは、五苓散坐薬を自家製剤として院内に限り使用しています（保険適応外の使用方法なので、保険請求できません、せいぜい薬剤費として2gの五苓散、、、）

かつて、熱性痙攣の乳児にセルシン注射薬液を注腸するのが一般的でした

現在では、ダイアアップ坐薬となっています

五苓散坐薬も多くの病医院で使用されてゆけば、正式に認められるようになることでしょう。